

資料9

# 総合的な学習の時間 の評価

関西学院大学教授

佐藤 真

[sshin@kwansei.ac.jp](mailto:sshin@kwansei.ac.jp)



西宮・聖和キャンパス



西宮・上ヶ原キャンパス

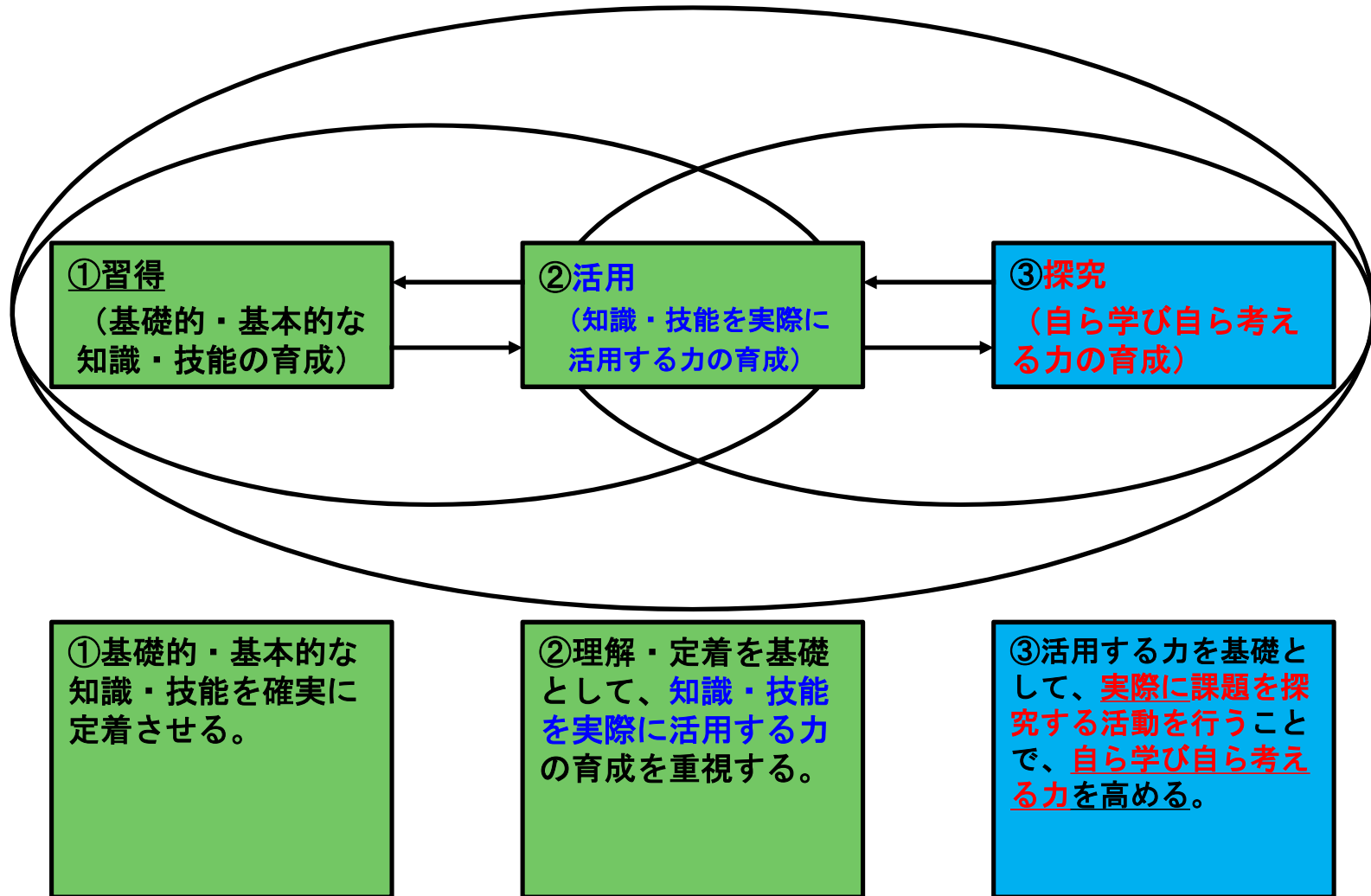


神戸・三田キャンパス

# 発表者の資料

- ・文部科学省「**道徳教育に係る学習評価の在り方に関する専門家会議**」委員(H27-現在)、
- ・文部科学省「**『課題解決に向けた主体的・協働的な学びの推進事業』**における『言語活動の充実に関する実践研究』**審査委員会**」委員(H27)、
- ・文部科学省「**教育研究開発企画評価会議**」委員(H26-現在)、
- ・文部科学省「**言語活動の充実に関する意見交換**」委員(H26)、
- ・文部科学省「**『確かな学力の育成に係る実践的調査研究』**における『言語活動の充実に関する実践研究』**審査委員会**」**審査委員**(H26)、
- ・文部科学省「**委託研究;学力調査を活用した専門的な課題分析に関する調査研究・学力向上に効果的な指導方法に関する調査研究**」**プロジェクトメンバー**(H26)、
- ・文部科学省「**小・中学校各教科等担当指導主事連絡協議会(総則編)**」**講師**(H25)、
- ・中央教育審議会「**青少年の体験活動の推進の在り方に関する部会**」**有識者**(H24)、
- ・文部科学省「**生徒指導提要**」**執筆協力者**(H21-H23)、
- ・文部科学省「**学習指導要領解説・総合的な学習の時間編**」**作成協力者**<小学校編、及び中学校編>(H19-H20)、
- ・国立教育政策研究所「**学力把握研究**」**企画委員会協力者**(H20-H22)、
- ・国立教育政策研究所「**総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善に関する調査研究**」**協力者**(H22)、等。

# 教科で「習得・活用」と総合中心で「探究」



# 学習評価の枠組み

## — 解釈基準と評価情報の解釈法 —

解釈基準		評価情報の解釈法				
1.絶対者		認定評価	絶対評価			
2.目標	領域 (domain)	領域準拠 評価		到達度 評価	目標に 準拠した 評価 (いわゆる 絶対評価)	
	標準 (standard)	標準準拠 評価				
3.集団	大きな集団 (norm)	ノルム準拠 評価	相対評価			
	小さな集団 (cohort)	コホート 準拠評価				
4.個人		個人内評価	個人内評価			

# 学習指導要領 解説(2008)



文部科学省『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』東洋館出版社,2008

文部科学省『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』教育出版,2008

## 総合的な学習の時間の目標(小・中)

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、**自己の生き方を考えることができるようにする。**



---

## 総合的な学習の時間の目標（高校）

横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育成するとともに、学び方やものの考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育て、**自己の在り方**生き方を考えることができるようにする。

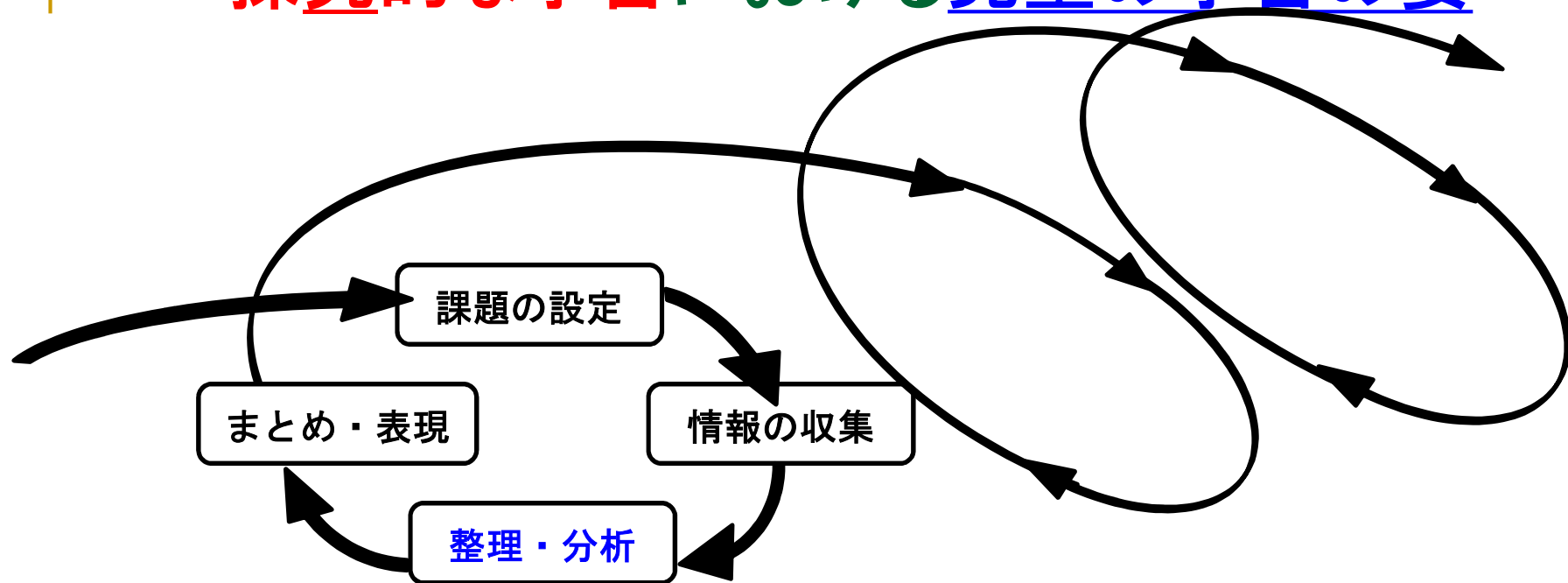
---

# 目標の五つの要素

- (1) 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- (2) 自ら課題を見付け, 自ら学び, 自ら考え, 主体的に判断し, よりよく問題を解決する資質や能力を育成すること
- (3) 学び方やものの考え方を身に付けること
- (4) 問題の解決や探究活動に主体的, 創造的, 協同的に取り組む態度を育てること
- (5) 自己の在り方生き方を考えることができるようにすること



# 探究的な学習における児童の学習の姿



■ **日常生活や社会に目を向け**、児童が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。

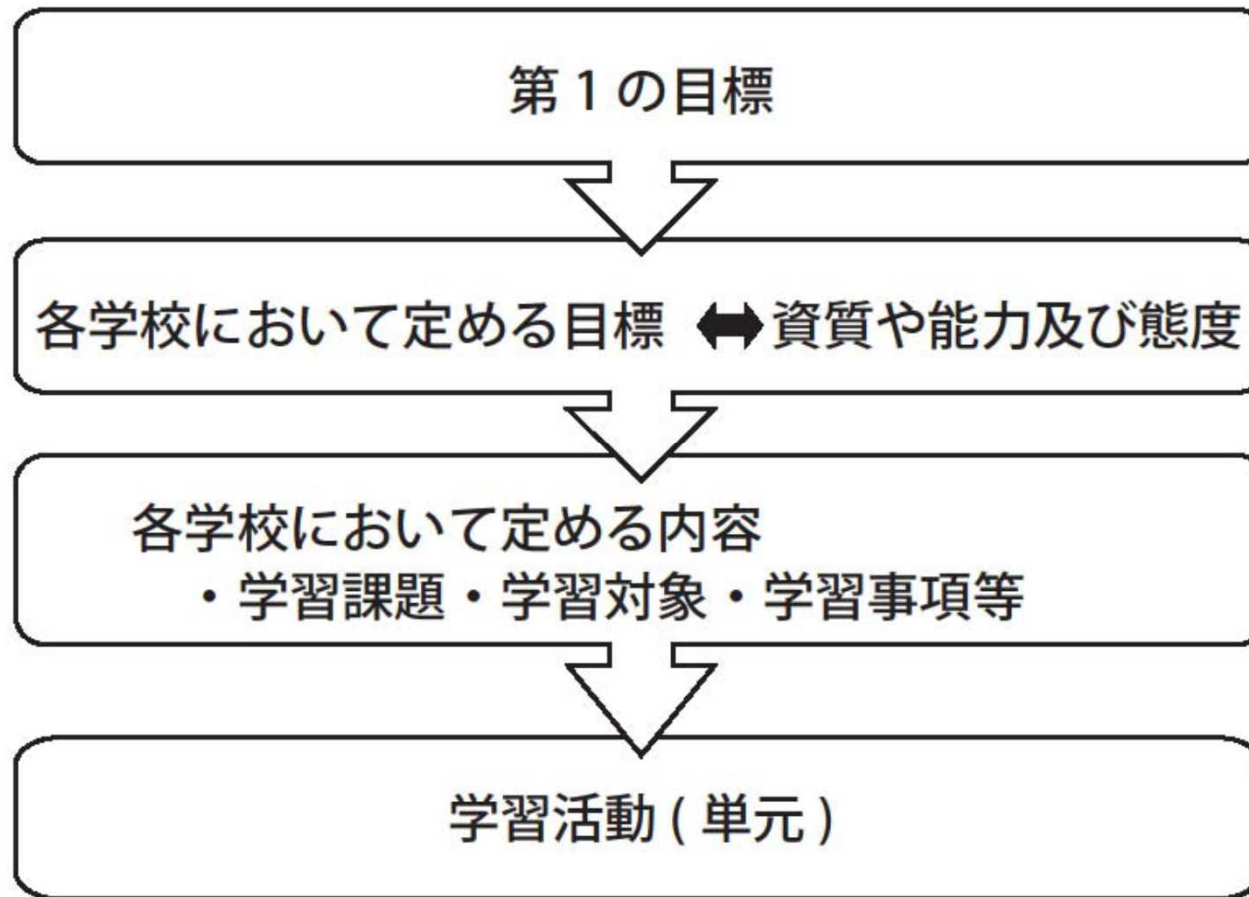
- ① 課題の設定
- ② 情報の収集
- ③ **整理・分析**
- ④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が**新たに更新**され、探究の過程が**繰り返**される。

# 他者と協同して取り組む学習活動

- (1) 多様な情報を活用して  
協同的に学ぶ
- (2) 異なる視点から考え  
協同的に学ぶ
- (3) 力を合わせたり交流したりして  
協同的に学ぶ

# 目標, 育てようとする資質や能力及び 態度, 内容, 学習活動の関係



---

# 育てようとする資質や能力 および態度の設定

- (1) 学習方法に関すること
- (2) 自分自身に関すること
- (3) 他者や社会とのかかわり  
に関すること

# 指導計画の作成について(1)

## 1 総合的な学習の時間における指導計画

### (1) 指導計画の要素

- 1) この時間を通してその実現を目指す「目標」
- 2) 目標を実際の学習活動へと実践化するために、より具体的・分析的に示した「育てようとする資質や能力及び態度」
- 3) 「目標」の実現にふさわしいと各学校が判断した学習課題等から成る「内容」。この「内容」を定めるに当たっては、学習対象や学習事項等によって、学習課題を具体的・分析的に示すことが考えられる。

# 指導計画の作成について(2)

## 1 総合的な学習の時間における指導計画

### (1) 指導計画の要素

4)「内容」とのかかわりにおいて実際に児童が行う「学習活動」

これは、実際の指導計画においては、児童にとって意味のある問題の解決や探究活動のまとめりとしての「単元」、さらにそれらを配列し、組織した「年間指導計画」として示される。

5)「学習活動」を適切に実施する際に必要とされる「指導方法」

6)「**学習の評価**」。

これには、**児童・生徒の学習状況の評価**、**教師の学習指導の評価**、1)～5)の適切さを吟味する**指導計画の評価**が含まれる。

7)1)～6)の計画、実施を適切に推進するための「指導体制」

# 児童・生徒の学習状況の評価(1)

- 発表や話し合いの様子，学習や活動の状況などの観察による評価
- レポート，ワークシート，ノート，作文，（論文）絵などの制作物による評価
- 学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集積したポートフォリオによる評価

※（ ）内は中学校のみ



---

## 児童・生徒の学習状況の評価(2)

- 一定の課題の中で身に付けた力を用いて活動することによるパフォーマンス評価
- 評価カードや学習記録などによる児童・生徒の自己評価や相互評価
- 教師や地域の人々等による他者評価

---

# ポートフォリオ評価 (portfolio assessment)

1. 教師の意図的・計画的・かつ組織的・継続的な取り組みが必要 (意図性、計画性、組織性、継続性)
  2. 児童・生徒と教師等による共同的で協力的な評価が必要 (共同性、協力性)
  3. 児童・生徒の学びの過程そのものを具体的に説明できる多様で多面的な資料を収集・選択そして整理することが必要 (過程性、具体性、多様・多面性、集積性、選択性)
-

# ポートフォリオ評価 (portfolio assessment)

4. 児童・生徒の学びを把握し解釈するための「評価指標 (rubric)」の設定とその明示が必要  
(指標設定性、視認・明示性)
5. 児童・生徒と教師とのポートフォリオを介した対話と逸話的な記録の綴りが必要  
(対話性、逸話性、記録性)

- ※ 評価指標の共有化
- ※ 対話と会議 (conference) の必要性
- ※ 個人言語の重要性 (学習の促進・停滞・低落)

---

# 評価における

## アーティスティック・アプローチ(質の判断)

1. アート(芸術)とサイエンス(科学)は補完的關係
  2. 非言語的コミュニケーションの評価
  3. 表現の評価
  4. 作品の評価
  5. パフォーマンス(能動的知性・活動的知性)評価
    - (1)求める能力を用いる活動自体を評価する方法
    - (2)実験・観察・活動の能力を評価する方法
    - (3)長期間の意味ある学習を評価する方法
-

# ルーブリック(評価指標)

ルーブリック(rubric)の設定

(1) 学習目標との関係において求められる達成事項の質的な内容を文章表現したもの。

(**規準**)

(2) 児童・生徒の学習の実現状況の終わりを示す数段階の尺度(**基準**)

+

それぞれの尺度に見られる**学習の質的な特徴を示した記述語や学習作品(work)**

# 「総合的な学習の時間」の評価の 観点例示

## 1 指導要録

(1) 学習活動 (2) 評価の観点 (3) 評価

## 2 観点例示

(1) 「第1の目標」ないし各学校で定めた目標に基づいた  
(よりよく問題を解決する資質や能力、学び方やものの考え方、等)

(2) 育てようとする資質や能力及び態度に基づいた  
(学習方法、自分自身、他者や社会との関わり、等)

(3) 各教科との評価の観点との関連を明確にした  
(関心・意欲・態度、思考・判断・表現、技能、知識・理解、等)

\*(1)は目標、(2)は育てようとする資質や能力及び態度、(3)は内容(学習対象・学習事項)

---

# 鑑識眼(connoisseurship)

1. 作品の「質」を判断する。(逆は、量の測定)
  2. 作品の真贋を見極める。
  3. 作品の真価を見定める。
  4. 効果的または説得的に記述し、表現する。
  5. 批評する(知識・経験・見識の裏打ち)。
  6. 質の相違を識別し、その特徴を認識する。
  7. 説得力があり、一貫性がある。
  8. 鑑識眼に基付く**批評の交流**が授業改善を導く。
-

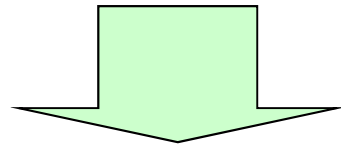


## これからの評価のポイント

### モデレーション(moderation)の実施

評価の手続きを統一して一貫性を図るために  
実施する

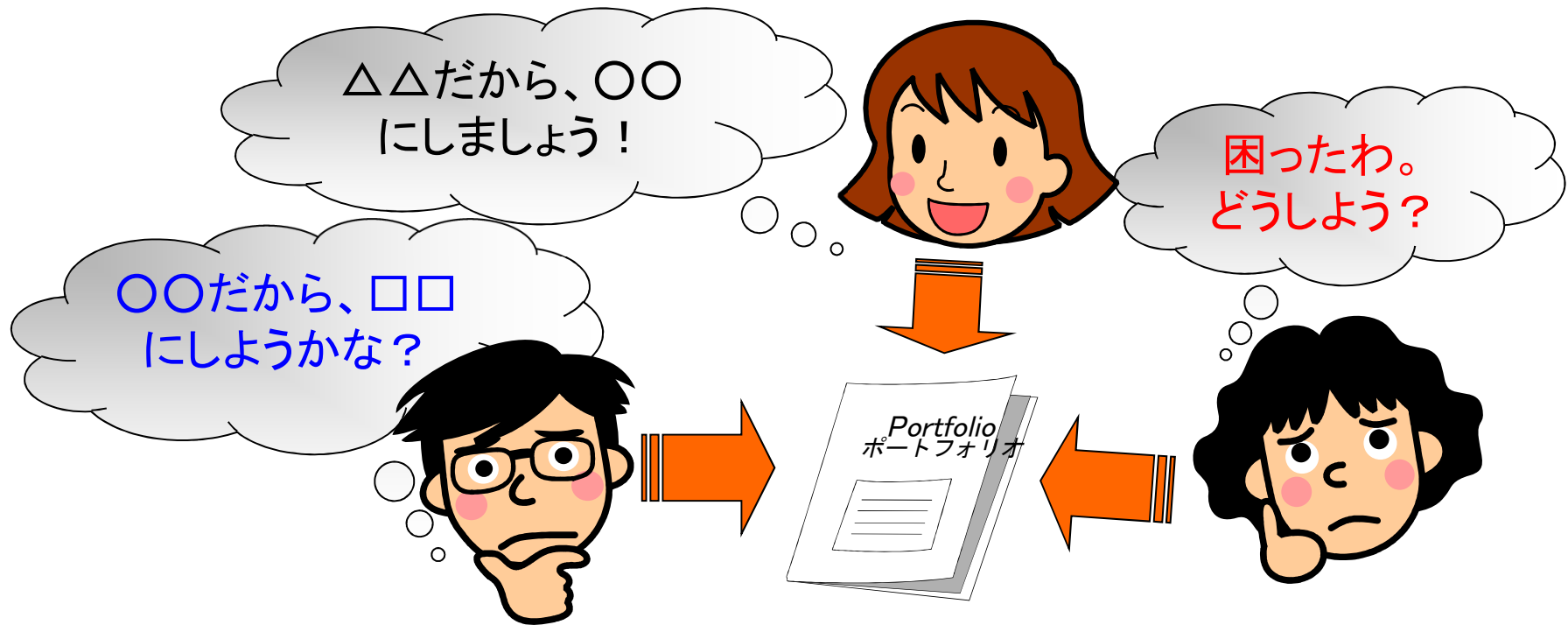
※ここでは、評価の過程を統一するものとして示す。



教師間で評価結果に至るまでの各段階で必要  
となる手続きを統一する

# モデレーション

- ◆ 各評価者が評価した、児童・生徒の評価資料を持ち寄り、各評価者の評価の基準の解釈や適用の相違点について討議し、評価の統一を図る。



## これからの評価の基本的な考え方

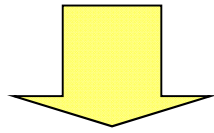
- ア 学力を知識の量のみでなく自ら学び自ら考える力など「生きる力」でも捉える。
- イ 目標に準拠した評価（いわゆる絶対評価）を一層重視し、個人内評価工夫する。
- ウ 指導と評価の一体化を図るとともに、学習指導の過程における評価の工夫を進め、学習の改善に生かす。
- エ 児童生徒の成長の状況を総合的に評価する。
- オ 評価について専門的力を高める。校内研究・研修を実施する。

## 児童・生徒の学習状況を客観的に評価する方策

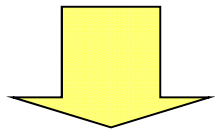
- ア 評価規準・評価方法等を関係機関において研究開発する。
- イ 各教科の評価規準は「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」の4観点に基づいて研究開発する。
- ウ 評価事例集の作成や、教員に対する評価に関する研修を充実する。
- エ 学校では、評価の校内研究・研修を進め、教員間の共通理解を図る。

# おわりに

- Evaluation(評価)



- Assessment(評価・査定、状況判定)



- Appreciation(評価、鑑賞、感謝)

真価を認めて、励ます。

(叱咤・激励)



※本資料の無断での引用・転載・複写を禁ずる。

Shin Sato



関西学院大学  
KWANSEI GAKUIN UNIVERSITY

## 参考文献

1. 佐藤真『「総合的な学習」の実践と新しい評価法』学事出版、1998年。
2. 佐藤真『「総合的な学習」実践分析と展開の急所』学事出版、2000年。
3. 佐藤真編著『ポートフォリオ評価による通知表・指導要録の書き方』学事出版、2001年。
4. 佐藤真編著『基礎からわかるポートフォリオの作り方・すすめ方』東洋館出版社、2001年。
5. 佐藤真編著『総合的な学習の評価規準をどうつくるか』学事出版、2002年。
6. 佐藤真編著『今日から始める絶対評価の基礎・基本』教育開発研究所、2003年。
7. 佐藤真編著『「総合的な学習」の授業評価法』東洋館出版社、2003年。
8. 佐藤真編著『「評価資料の作成・活用」を実践から学ぶ』教育開発研究所、2004年。
9. 佐藤真編著『「総合的な学習の時間・体験活動」研修』教育開発研究所、2005年。
10. 佐藤真編著『体験学習・体験活動の効果的な進め方』教育開発研究所、2007年。
11. 佐藤真編著『中学校・新学習指導要領の展開、総合的な学習編』明治図書、2008年。
12. 文部科学省『小学校学習指導要領解説・総合的な学習の時間編』東洋館出版社、2008年。
13. 文部科学省『中学校学習指導要領解説・総合的な学習の時間編』教育出版、2008年。
14. 国立教育政策研究所『総合的な学習の時間における評価方法等の工夫改善のための参考資料(中学校)』国立教育政策研究所教育課程研究センター、2011年。